

## 作業療法 第44巻 第1号 (通巻244号) 目次

### ◆巻頭言

[フリーアクセスからオープンサイエンスへの転換とその意義](#) . . . . . 齋藤 和夫 1

### ◆学部報告

[第58回日本作業療法学会の最優秀演題賞・優秀演題賞の表彰](#) . . . . . 学会企画委員会 3

### ◆総説

[脊椎圧迫骨折患者に対する作業療法実践](#)

[—スコーピングレビュー—](#) . . . . . 木村 優斗・他 6

### ◆原著論文

[活動の質評価法 \(A-QOA\) 講習会における教育効果の自己評価による検証](#)

[—研究知見の知識伝達と実践活用による知識の橋渡しの効果—](#) . . . . . 小川 真寛・他 15

[橈骨遠位端骨折患者の術後早期における患側上肢の使用状況と機能的・心理的要因](#)

[および慢性疼痛との関連性](#) . . . . . 新屋 徳明・他 24

[地域在住高齢者に対する作業の価値調査票 \(Questionnaire of the Occupational Value](#)

[for the Elderly: QOVE\) の開発](#) . . . . . 岩崎 純平・他 33

[統合失調症患者へのRey 複雑図形模写課題の臨床応用](#)

[—遂行機能障害の簡易評価尺度に着目して—](#) . . . . . 河野 正志・他 43

[要支援高齢者に関連する要因の検討](#)

[—フレイルと日常生活活動の満足感に着目して—](#) . . . . . 金山 祐里・他 51

[リハビリテーション職種の職務満足度の特性と離職リスクにおける縦断研究](#)

. . . . . 澤田 辰徳・他 59

[脳損傷による自動車運転中止後の外出頻度に関わる検討](#)

[—4 症例のインタビューによる質的研究—](#) . . . . . 末次 亮平・他 69

### ◆実践報告

[作業中心の実践により描画の作業遂行の改善および参加が促された](#)

[幼児期AMC 児の事例](#) . . . . . 池部 淳・他 78

[クライアント中心のカナダモデルを活用した終末期がん患者への作業療法](#)

[—ゲーム会を通じた緩和ケア—](#) . . . . . 齋藤 駿太・他 86

[軽度認知障害高齢者に対する人間作業モデルの3 ヶ月間介入の効果と](#)

[認知機能改善に関係する構成概念の検討](#) . . . . . 渡部 雄太・他 94

[右側頭頭頂皮質下出血により重度の半側空間無視を呈した症例に対する](#)

[両手を使った能動的な運動を利用した介入](#) . . . . . 荘司 さやか・他 101

[脳卒中により言語障害を呈したクライアントへのCognitive Orientation to daily](#)

[Occupational Performance \(CO-OP\) を基盤とした訪問作業療法実践](#) . . . . . 土橋 大基・他 109

## 編集後記

▶OT になりたての頃、職場の先輩に研究する意義やそれを論文にする意味をたずねたことがある。先輩の答えは2つあった。1つは「今やっていることに本当に効果があるかどうかわからないでしょ？」ということ、もう1つは「論文にすれば、将来の患者さんの治療に使ってもらえるでしょ！」ということであった。それ以来、この学術誌「作業療法」に論文を投稿してみたいという意欲が高まり、おかげさまで何本かの論文を掲載してもらった。掲載されたことで1つ目の目的は達成されたように思うが、2つ目はどうだろうか。論文は掲載された後にこそ、その真価が問われるのかもしれないと自問自答しているのだが、本号に掲載されたそれぞれの論文の真価が発揮される日を今から待ち遠しく思っている。 (S・N)

▶今号も含め、最近の本誌の掲載論文を拝読すると、日本の作業療法研究は益々発展してきていると感じる。一方、本誌の発刊に携わる身として、この作業療法の取り組みを広く一般の社会に知ってもらいたいと思う。本誌はJ-STAGEを通してWEB上で公開されていることから、作業療法の知識を持たない一般の人々（例えば、進路を考えている高校生など）の目にも触れる可能性がある。その時、少しでも論文内容を分かってもらえたら、作業療法をより知ってもらえるだろう。これは、本誌が専門誌であることを考慮すると、難しいことかもしれないが、作業療法の認知度向上は、日本の作業療法士全員のタスクであり、本誌もその役割を担えるところがあるかもしれない。 (J・U)